



第36回日本高血圧学会総会

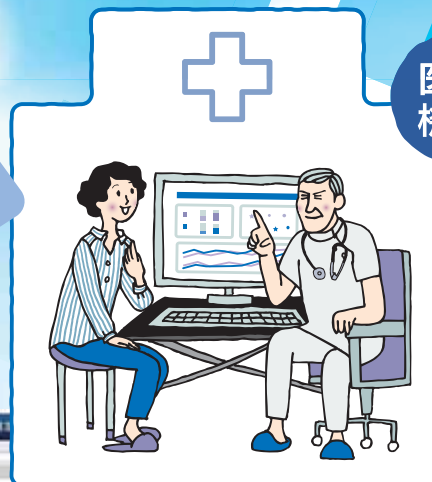
アフタヌーンセミナー6

自宅

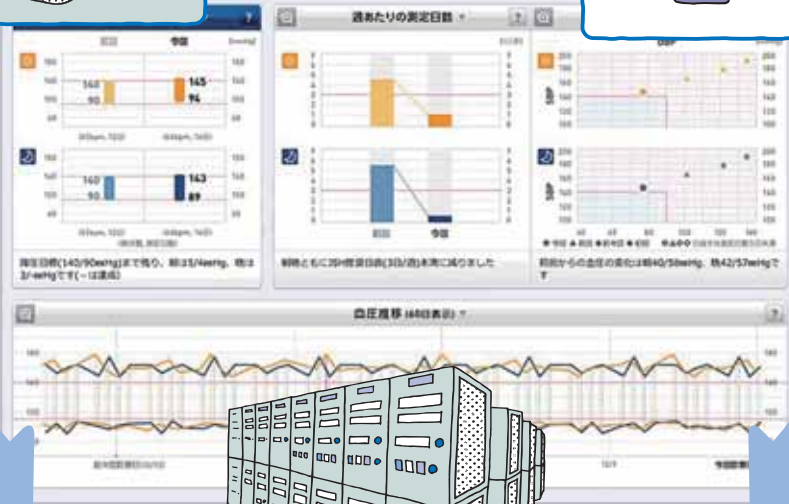


通院

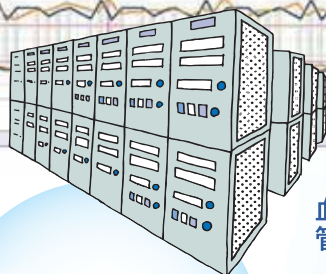
医療
機関



データを自動で送信



いつでも最新データが確認



血圧データ
管理センター(サーバー)

2013年10月25日(金) 15:50~16:40

会場

大阪国際会議場 第6会場(10F 1002)

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

座長

島田 和幸 先生 新小山市市民病院 理事長

演者

インターネット時代の高血圧診療

Anti-hypertensive Therapy in the Internet Era

堀井 和子 先生

京都駅前 ホリイ内科クリニック 院長

血圧管理のスマート化がおらほの町を変える~e-Healthと地域振興

Smarter Arrangements in Daily Monitoring of Blood Pressure and e-Health Solutions Will Revitalize Our Community

谷田部 淳一 先生

福島県立医科大学慢性腎臓病(CKD)病態治療学講座 助教



第36回日本高血圧学会総会

アフタヌーンセミナー6

インターネット時代の高血圧診療

Anti-hypertensive Therapy in the Internet Era

堀井 和子^{先生}

京都駅前 ホリイ内科クリニック 院長

家庭血圧測定は、臨床的に重要な仮面高血圧の診断には必須であり、診察室血圧測定より精度の高い血圧指標として認められ始めた10数年前から徐々に普及し、現在では高血圧診療に欠かせないものとなっています。

しかし、その家庭血圧測定にもいくつか課題が残されています。患者さんにとって測定結果を記録することの煩雑さが測定習慣化の障害になっていますし、時によりデータだけを手帳に書かれていて、そのために診断を誤ってしまう場合もあります。また、医師にとって、血圧手帳にランダムに記載された大量の数字から、限られた診療時間内で情報を読み取るのは困難で、患者さんから提示された血圧情報を十分把握しているとは言い難いのが現状です。

このような家庭血圧の人的作業の限界を、ICT(情報通信工学)を応用した仕組みによって解決しようとする試みが始まっています。昨年運用が開始されたメディカルリンクは、携帯電話モジュールを内蔵した血圧計を導入し、患者による自己測定が完了するたびに、測定結果を携帯電話回線を通じてサーバに自動送信します。サーバにアクセスすると、患者さんのパソコンからは、朝夕の血圧測定結果のわかりやすいグラフが見られ、医師のパソコンからは、血圧のグラフのみならず、前回・前々回からの血圧の変化、ME差、日内変動、曜日変動、季節変動など統計処理された血圧データ、異常を捉えやすい脈拍データなどを見ることができます。

本システムの導入によって、1)測定するだけで、記録の手間なくわかりやすいグラフが得られる、2)値の操作のない血圧の客観的データが得られる、3)血圧データに含まれる種々の変動性を統計処理された結果が見られる、4)患者の血圧を次回受診日まで待つことなく、リアルタイムにモニタリングできる、5)アラート機能により、異常血圧の時には医師にメールで通知される、などが可能となりました。

従来の診療を単純X-pクラスとするなら、メディカルリンクでは、CTクラスともいえる、豊富で有機的な情報を活用した外来診療が可能になり、より個別診療に近づくこと期待される共に、必要に応じて、診察日以外でも患者さんへの介入が可能です。

本講演では、このメディカルリンクをどのように高血圧の実地診療に活用し得るか、自験例を紹介すると共に、今後の展望についても考察したいと思います。

血圧管理のスマート化がおらほの町を変える ～e-Healthと地域振興

Smarter Arrangements in Daily Monitoring of Blood Pressure
and e-Health Solutions Will Revitalize Our Community

谷田部 淳一^{先生}

福島県立医科大学慢性腎臓病(CKD)
病態治療学講座 助教

住民の高齢化や市街地の空洞化が進行する過程においては、個人の健康管理が最重要課題となる。身体的・精神的に自立不可能な高齢者が増加することで、商店街など生活に密着した地域産業が衰退を始める。域内で生活を完結できなくなれば近郊にサービスを求めることになり、そのことが買い物難民などの生活弱者を増やし自立を困難にするという悪循環に陥る。家庭血圧測定は簡便に実施できる健康管理法の代表であり、健康寿命の延長に効果を発揮すると期待される。今回、福島県会津美里町において、家庭血圧を含むパーソナルヘルスレコード(PHR)の作成にICTを活用し、健康づくりと地域づくりに取り組む事業を開始したので報告する。

本事業は、会津美里町、同町商工会、NPO法人福島医療・ヘルスケアICT研究会から成る実行委員会が主催し、福島県立医科大学が監修した。家庭血圧はオムロン社のMedicalLINK(携帯電話通信モジュール内臓血圧計HEM-7251G)を使用した測定を推奨する。個人情報取り扱いに関し文書にて同意を表明した参加者は、現病歴、既往歴、内服薬、検査履歴などを専門の係員がPHRとして再デジタル化し保存するサービスを無料で使用できる。全てのデータは、町内3か所の端末からVPN回線を通じて会津若松市に置くデータセンタに伝送され、24時間有人監視のもと安全に保管される。参加者は、登録したPHRの内容や実行委員会が指定する健康啓発活動への参加に応じポイントを得て、町内でのみ使用可能な商品券と交換できる。

作成したPHRは高血圧治療ガイドライン2009に準拠したアルゴリズムにより自動解析され、参加者は自己健康管理の計画と評価に活用できる。収集されたデータは、匿名化された統計情報として利活用され、住民の健康状態と本事業の波及効果を多角的に分析するため用いられる。また有事の際には、避難先や搬送先の病院においてWebを通じて情報を取り出すことが出来るようにする。登録した情報の量と質に応じてポイントが得られるため、継続への動機付けとなる。ポイントは町内加盟店で消費され、地域振興の強力な手段となりうる。

活力ある地域づくりのためには、住民の健康維持が不可欠である。家庭血圧や医療情報管理のスマート化とインセンティブを柱としたこのヘルスプロモーションは、新しい地域振興策として「あいづじげん健康ポイント倶楽部」と名付けられ、大きな盛り上がりを見せている。